

秋号

人と地域をつなぐ情報誌

の う ね

Noune+

PLUS

CONTENTS

- ✔ 特集——長畝地区防災訓練…P.2～3
- ✔ トピックス…P.4～5
- ✔ 歴史の場所を歩く⑬…P.7

* 長畝地区防災訓練 *

8月に行われた坂井市防災訓練では
各行政区が中心となり
一次避難所に避難し、本番に備えた



長畝地区防災訓練



災害時の初動体制と広域避難所開設の検証！

8月20日（日）午前8時30分に丸岡町長畝地区を震源とする震度7（マグニチュード7.3）の直下型地震が発生。地区内に相当数の死傷者・建物半壊の被害があり、道路・橋などのインフラも相当数被害を受けたという想定で、地区災害対策本部の設置及び広域避難所の開設・運営訓練を実施しました。また、各集落では区長を中心に一次避難所で安否確認・被害確認・本部へ報告の訓練が行われました。

地震が発生したらどう行動したらよいのか！地域としてはどう対応したらよいのか！
1人1人が今一度防災について考えてみましょう



▲受付をすませ災害対策本部の準備をするスタッフのみなさん



◀▲広域避難所に避難してきた住民の受入の様子



◀▲一次避難所からの報告の対応をする対策本部

災害は忘れたころにやってくると言われるが、最近では、阪神淡路大震災・新潟県中越地震・東日本大震災・熊本地震など、忘れないうちにやってくる。また、豪雨や台風被害などをいれると、日本は毎年大きな災害に見舞われ、大事な人命と財産が失われています。

福井県でも近年ナホトカ号重油流出事故災害・福井豪雨など大きな災害に見舞われています。先日の台風21号は大災害ではありませんでしたが、でも、坂井市をはじめ県内各所で瞬間風速40m近くの強風が吹き、多くの立木倒木や家屋被害が出ています。

日本は災害大国と呼ばれ、古来より各種の災害に対峙してきました。英知を絞り、インフラも整備され、助け合いの精神も熟成しています。

私たちが住む長畝地区においても戦後、福井大震災や豪雨により多くの被害を被ってきました。このような中で、大災害に備えて、長畝地区にも広域避難所が指定され、非常用物資が備えられています(長畝小学校)が、いざという時に活用方法が決まっています。

した。そこで、のうねの郷づくり推進協議会では、昨年、広域避難所の運営シミュレーションを机上でゲームを通して行い、今年は、地区内の区長・民生委員・福祉委員・まち協役員たちにお集まりいただき広域避難所設置・運営マニュアルと、各集落単位に避難所マニュアルの作成を行いました。

また、8月に行われた坂井市総合防災訓練では、マニュアルを元に長畝小学校で地区災害対策本部の設置・運営訓練と共に広域避難所設置・運営訓練を実際に行ったところです。

訓練を通じて、いろんな課題が浮かび上がってきましたが、今後いつ起こるかわからない災害に対して、常在戦場の気持ちを持ち続け、災害対応のソフト面での環境を整えていきたいと思っています。是非、地区の皆様においても防災72時間(3日)以内は、自分・家族・地域内で助け合いながら(いわゆる自助・共助)、命と財産を守っていかねければならないということを肝に銘じて頂きたいと思います。

事務局長 東角 操



▲与河区
自衛消防隊による消火訓練

▼坪江区
防災ビデオによる学習会



▲山久保区
受法寺境内に集合したみなさん



▲物資の配布訓練



▲負傷者の救護訓練



▲西出智一さん避難所体験談



◀情報伝達に使われた衛星電話



▲県防災ヘリ重症者の救助訓練

一次避難所では集落ごとに自主訓練も行われました!

味 第4回 いこい祭り in 味岡山 岡山三世代交流会

味岡山はいつでも、誰でも、楽しく気持ちよく行ける公園を目指し、家族で味岡山公園の再発見する機会を設けようと、『いこい祭り in 味岡山』が8月11日(金・祝)に行われ、毎年8月に開催しています。家族連れや地区民など約80名が参加しました。当日は天気にも恵まれ暑い1日となりましたが、今年は流しそうめんにみかんをいれて工夫したり、宝探しゲームやクイズなどで味岡山を探索したり、また親子でのバーベキューも行われました。

来年も今年以上にみなさんに来て楽しんでいただけるよう、部会員一同がんばってまいりたいと思います。

(文：かんきょう部会)



▶(写真上) 大蛇、(左上) 綱切、(左下) 注縄
力強い舞で日向神楽を表現している。



巖 受け継がれる「長畝日向神楽」 かに日向神楽を奉納

県指定無形文化財の「長畝日向神楽」が、長畝の八幡神社で奉納されました。日向神楽は、神話「天の岩戸」を題材にしたもので、丸岡城主・有馬清純が越前国丸岡五万石へ移封された際に日向国(現在の宮崎県)からこの地に伝えられました。廃藩置県により神楽継承の危機を迎えましたが、長畝村の有志により神楽は受け継がれ、現在は長畝日向神楽保存会により継承されています。9月16日(土)、17日(日)の両日、五穀豊穡と世の平穏を願い、巖かな16の舞が披露されました。

古 第49回古城まつり開催 城まつりにまち協が参加

去る10月8日「丸岡古城まつり」が秋晴れの中、開催されました。延べ500人近い参加者による五万石パレードにおいては各地区のまちづくり協議会が歴代城主に扮し武者行列で街中を練り歩きました。のうねの郷づくり推進協議会は、有馬清純隊に扮し、道中の各演舞ポイントで口上と共に殺陣を披露し観客の盛んな拍手を浴びました。

総踊りでは「チームのうね」として長畝小学校3年生親子とまち協メンバーの約80名で参加し踊りました。姉妹都市 宮崎県延岡市の民謡「ばんば踊り」や「丸岡音頭」などを踊り、総勢38チーム、1500人の参加で踊りの輪を広げました。子供達の元気な踊りと「We love noune!」の大きな掛け声で優秀賞を頂く事ができ、参加した子供達の思い出に残った総踊りでした。

(文：高山 孝幸)



▲丸岡城北側にイルミネーションを設置し、盛上げに協力。



Topics

地 第4回のうねシルバーフェスタ&郷まつり 域がつながり 大きな輪広がる

第4回「のうねシルバーフェスタ&郷まつり」が9月24日(日)、長畝小学校体育館を中心に盛大に開催されました。今年は、来場者がよりステージ発表が楽しめるよう、体育館内に特設ステージを設置。ラジオでおなじみの二木あつ子さんのトークショーやゲーム・クイズ、長畝小学校児童やつぼみ保育園児による歌の発表などがあり、会場を沸かせていました。

また、体育館前の駐車場では作品展示や模擬店などが行われ、夜には総踊りや恒例の花火の打ち上げもありました。今年の祭りには、長畝地区に住む75歳以上の人の長寿を祝うために招待された218人のほか、秋晴れの穏やかな一日でもあり、約3,000人の地域住民が来場し、終日にぎわっていました。(文：じょうほう部会)



◀(写真右) 二木あつ子さんと「ダンスジャンククロケット」のみなさんによる、歌と踊りのショーや、(写真左) 坂井警察署によるオレオレ詐欺被害防止講座『みんなで守る座』ではわかりやすく、寸劇が行われました。



▲敬老会招待者はOX ゲームに参加し、楽しみました
▶体験型イベント、わんぱく探偵団が行う『ブラ板作り』は子どもたちに大人気！
▼お楽しみ抽選会 1等賞品は地元丸岡つるやさんの豪華お肉セット～！！



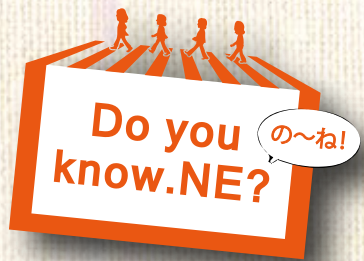


▲昨年9月に行われた
「坂井市花壇コンクール」で
入賞をいただきました

▼区民の思いが込められた
花壇の名前『花咲く小径』



▲花壇作りには地区民全員が参加



住民が「一丸となり」 花のあふれるまちづくり

～ 文京区 ～

文京区では約25年ほど前から、花壇づくりをするようになりました。今回はその花壇について紹介いたします。

文京区は3班に分かれており、1班16戸、2班20戸、3班22戸の計58戸で成り立っています。花壇を管理する花壇長（2年任期）がいて、その役割は肥料、石灰、苗の購入、各作業の日程決めなどの段取りをしています。1班、2班、3班それぞれ担当する花壇に花壇長の計画のもと、①3月は草むしりと土起こし、肥料まき作業、②6月初旬は苗定植作業、③10月下旬は草むしりと花木の撤去など一斉に行っています。苗定植後は班ごとに担当する花壇の水やりを各戸持ち回りで行っています。花壇は道沿いにあつて直線距離にすると、70～80メートルくらいあり、サルビア、マリーゴールドなどが8月から10月にかけて大きく元気な花を咲かせます。毎年、坂井市の花壇コンクールに応募しており、入賞をいただいております。

他の集落の方々から「毎年きれいな花が咲いていますね」「どうやって管理しているの？」などの声を多く聞きました。興味を持ってくださる方がいる事を大変うれしく思います。

これからも文京区の1つの名所として花壇を維持していこうと思いますので、興味のある方は見に来て下さい。

平成29年度文京区区長 西出貴史

THE 長畝遺産



「いちほまれ」

皇室献上米に

※いになめさい
皇室の新嘗祭に供える献穀米の田植え式が6月1日（木）南出俊昭さん（丸岡町与河）方の圃場で、JAや行政関係者、地区住民ら200人余りが参加し、行われました。白装束に烏帽子姿の南出さんを中心に来賓とかすり着物姿の女児ら15人が1アールの水田に「いちほまれ」の苗を植えました。

また抜穂式が9月15日（金）に行われ、厳粛な神事に続き式典では、富田勇一JA組合長は「例年がない長梅雨と7月の猛暑、8月の日照不足で並々ならぬ苦勞をされたと思いますが、適切な管理で豊かな実りの秋を迎えられました」とあいさつされました。

南出さんをはじめ、西川一誠知事や坂本憲男坂井市長、刈女ら15人が稲穂を鎌で丁寧に刈り取りました。南出さんは「滞りなく抜穂式が挙行でき、関係者のご協力に感謝します。乾燥調製に細心の注意を払い、つつがなく大任を果たしたい」と謝辞を述べました。丹精込めたお米は、10月23日（月）に天皇皇后両陛下に献納されました。今年には福井県の新ブランド米「いちほまれ」を初めて献納。坂井市では5年ぶり、旧丸岡町では23年ぶり、当長畝地区では72年ぶりのこと。南出さんは「何もかもが初めての体験で大変苦勞しましたが、大変名誉なこと家族一同大きな喜びです」と話していました。

※新嘗祭（いになめさい）

宮中祭祀のひとつ。大祭。また、祝祭日の一つ。収穫祭にあたるもので、11月23日に、天皇が五穀の新穀を天神地祇（てんじんちぎ）に勤め、また、自らもこれを食して、その年の収穫に感謝する。宮中三殿の近くにある神嘉殿にて執り行われる。



▶豊作を祈って丁寧に植える
白装束の南出さんと坂井市長



▲稔りの秋を迎え、日本一（いち）美味しい、誉れ（ほまれ）高さお米「いちほまれ」が収穫された

歴史の場所を歩く⑬ 新しい地籍が出来た 石上区のこと



先に「Noun+」で
お知らせがあつたが、
平成26年に石上区が
新しい大字となつて
「石上区」が成立した。
どうした理由からか
わからないが従来石
上区は曾々木、内田、
与河、田屋、篠岡、
八ヶ郷の六地区の地籍
から成つていて「石上」
という地名は地籍上では
存在していなかった。
集落名「石上」を地籍
としてあらわすことは区民
の長年の悲願であり、丸岡町
時代から要望が続けていた。
折から国の国土調査事業で地籍調
査が実施されること

を利用して、関係集
落の同意を得て、字
名を統一して新しく、
「石上1字」「石上2
字」が誕生した。平成
26年12月のことであ
る。新しい石上区の
面積は70,000㎡
である。

これで、石上区のす
べての住所表示は「丸
岡町 石上〇の〇〇」
と表示とされることにな
った。また、郵便
番号も新しく「910
1317」と決められ
た。
では、石上という集
落はいづころできたの
だろうか。また、ど
のような歴史があるの

う記録によると住所
が「石上」「篠岡」と
記載されている藩士が
合わせて13名もいる。
石上は丸岡町から竹
田へ行く重要な道筋に
ある。以前竹田へ行
くには丸岡の竹田口の
城門を出て石上、篠
岡、豊原を通り、榎
峠を越えるのが通常の
道であつた。竹田口、
石上は竹田へ通じる重
要な関門であつたので
ここに武家屋敷を配置
して守りを固めたよう
だ。以上のことから
察して「石上」という
地名は既に江戸時代
からあつたが、集落と
して存在していたので
はなく、組屋敷として
お武家さんの屋敷があ
つた場所と推定され
る。その後明治時代
になつてから集落の形
を整えてきた。丸岡
藩では組屋敷は領地
として所有するのでな

く、地元の農民から
借り上げて住まわせて
いたという記録が残つ
ているが、これもその
ような場所であつた。
そのため、土地の所
有は地主である各
村々に分かれていたの
であり、それが平成
になつてもそのまま残
されていたのである。

よつて石上区には鎮
守の神社がない。祭
りがない代わりに、
ふれあい会館広場
にある地藏大仏を祀
つてきた。この仏さ
まは天保の飢饉の
ときに豊原から移
されたもので像高
2メートルにも及
ぶ大きな仏様と1
メートル程の寄せ
木造りの地藏が祀
られてある。胸から
膝のあたりまでぎ
つしり飢饉で亡く
なつた人の法名が書
かれてある。石上区
ではこの大仏を村の
守り主として大切
に守つて

(文責 水崎亮博)



のうねの郷第二コミュニティセンター短期講座

10/21 (土) 『秋の寄せ植え』



「秋の寄せ植え教室」に地区内の12名が参加。講師に花壇アドバイザーの見谷晴美先生をお迎えし、レウカンサやカルーナなど花の名前や特徴などを教えてもらいながら、思い思いに植えていました。

11/11 (土) 『越前カンタケ教室』



◀収穫が待ち遠しいと話しながら作業する参加者たち



「越前カンタケ教室」に21名が参加。簡単な作業にもかかわらず、真剣かつ楽しそうに作業していました。管理状態が良ければ、20日程で発生し、3月頃まで楽しめるそうです。

味岡山イルミネーション点灯

今年で4回目の『味岡山イルミネーション』では「We love noune」のロゴマークが出現！さらに味岡山北側には約 15,000個の電球を追加して長畝地区を照らします。乞うご期待ください！



★イルミネーション点灯期間★

12月1日(金)～1月31日(水)
毎日17時30分～21時まで

第12回

坂井市花壇コンクール結果

見事に受賞されました
おめでとうございます！

表彰は12月3日(日)、
みくに市民センターで開催される
『国体300日前イベント』の場で
行われます。

優良賞

【地区部門】

小黑老人クラブ

【広域部門】

のうねの郷づくり
推進協議会

これからの予定

☆11月26日(日)

短期講座『手作りパン教室』

☆1月18日(木)

坂井市丸岡自治区区長会

☆2月4日(日)

短期講座

『簡単そば打ち教室』

『本格そば打ち教室』

編集後記

▼秋らしい清々しい季節になりました。小学生、会社定年3人組と毎年1度の会合を行い、今年は9月に集まり、ゴルフ・酒・観光と楽しい時間を過ごしました。皆いい年になっても現職でのつまらない事・諸先輩方の豪快な話・息子、娘の事と男同士でも話題は尽きません。後何年継続できるかも楽しみのひとつです。こちらからの手土産は、郷土のPRとして『いちほまれ』を持参し、試食・宣伝をお願いし、次回まで皆元気で過ごせるよう、ご安全に！にて一堂解散。(K・S)

キラッ人



▲当時、日刊県民福井に取り上げられた記事

災害ボランティアを経験して

阪神・淡路大震災にて

1995年の阪神・淡路大震災に当時中学生ながら、災害ボランティアに参加した経験を持つ西出智一さん。8月20日に行われた防災訓練でそのときの体験談を地域住民の前で語った。

「当時、私は中学三年生。新聞で『受験勉強をしていた女の子がペンを持ったまま倒壊家屋の下で亡くなっていた』という記事を見て、父に『この子のために何かできないかな？』

と言ったことを憶えている。その言葉を聞き、父はその日の夜、ワンボックスカーに、たくさんの布団や食料などを詰め込み、『いくぞ』と私を連れて車を走らせた」。西出さんは、手話通訳の資格を持つ父親のサポートとして、耳が不自由な人たちの支援のため被災地へ向かった。

「福井県の担当地域は、宝塚市。市役所に到着したのは夜の三時ごろ。到着してすぐ

に感じたのが余震の多さだった。地震発生後一週間が経っていたが、職員は誰もいなかった。職員も被災者であり、自分のことで精一杯だったのだと今なら理解ができる。ボランティアの受付がどこかわからず、明るくなり市役所に行ってきた現地の人が右往左往している様子が記憶に残っている。当時は災害時のマニュアルも整っておらず、どこで、だれが、何をすればいいのかわかる指示をする人もおらず、組織体制を整えることが大変な様子だった。私の仕事は救済物資の仕分け、瓦礫の撤去、避難所の確認など。車が使えず、ママチャリ部隊として土地勘もない道を地図片手に避難所を探し回り、各避難所の要望を聞いて回った」と、20年以上前の出来事をはつきりとした記憶で語っていた。

体験から西出さんは「自分たちの身は自分たちで守らなきゃいけない。救済物資も欲しいだけもらえらるわけではなく、一人一人に合わせることは困難。災害が起きるかもしれないという意識を常に持ち、家族が生き抜くために防災意識の向上をすることは絶対に必要である」と話し、いざというとき、家族が会えるように集合場所を決める、非常食を用意しておくなどできることはある。福井地震から70年が経とうとしている今、災害を今一度考え、防災意識の向上に努めてほしい」と力強く訴えていた。

西出 智一

(にしてともかず)
1979年生まれ。坂井市丸岡町在住。職業は建築塗装業。趣味はマラソン、地元バレーボールスポのコーチもつとめている。二児の父親。